

# 令和7年度 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立梅丘中学校 学校関係者委員会

## 1. はじめに

梅丘中学校では、本年度も令和7年度の教育課程に基づく計画的な学校運営が進められ、安定感のある活気あふれる充実した教育活動が繰り広げられた。学校関係者評価委員会では、世田谷区の「学校評価システム」に基づき、以下の2点を分析・評価対象として本報告書を作成した。今後の教育活動と学校運営にご活用いただきたい。

- (1) 梅丘中学校学校関係者評価アンケート集計結果の分析・評価
- (2) 梅丘中学校生徒の学校生活振り返りシート集計結果の分析・評価

## 2. アンケート実施状況

アンケートは、令和7年10月24日～11月18日に実施された。

【生徒】対象359名 回答260名 回答率72%（前年度88%）

【保護者】対象359名 回答266名 回答率74%（前年度74%）

【地域】対象61名 回答20名 回答率33%（前年度53%）

今年度より、これまで調査内容の中心であった「世田谷区共通評価項目」がなくなり、一部の必須項目を除きすべての調査項目を学校の判断で独自に設定することとなった。本委員会では、経年変化を確認する意味でも昨年度の評価項目を踏襲しながら、学校の実態を把握するために必要と考えられる評価項目に限定していくこととした。その結果、評価項目数を以下のように削減した。

【生徒】 35項目→25項目	【保護者】 43項目→26項目	【地域】 17項目→13項目
----------------	-----------------	----------------

調査方式は今年度もオンライン方式により行われた。緊急連絡情報配信サービスが効果的に活用され、保護者の回答率は安定している。しかし、地域の方々にとっては、オンライン方式が十分に機能しているとはいえない面があり今後の工夫が必要となる。生徒・保護者や地域の願いを受け止めて、地域とともに子どもを育てる教育を推進するために、アンケート回答率が増加していくことはとても重要である。

## 3. アンケートの分析・評価

本報告書では、「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」、「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」としている。また、小数点以下の数値は四捨五入して表記している。

- (1) 重点目標・数値目標について

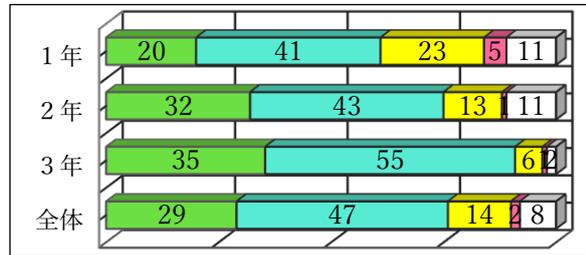
### ①キャリア・未来デザイン教育の充実

**「自分の進路や将来について考える授業がある」と自覚できる生徒を80%以上にする。**

この問いに対する肯定的評価は、1年：61% 2年：75% 3年：90% 全体：76%であった。目標の数値は下回っているが、学年が上がるにつれて肯定的評価が増えているので、この結果は中学生の実情を的確に示しているものと考えられる。それは、「自分の生き方や進路」に対する自

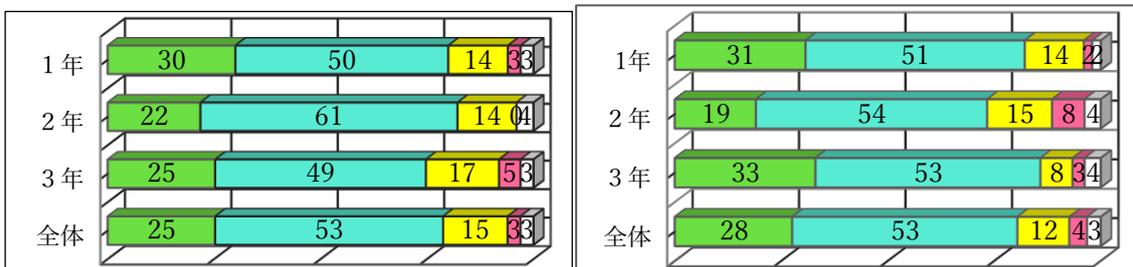
覚の変化である。すなわち、学年が上がるごとに「自分の生き方や進路」について、より現実的で具体的に考えるようになるということである。特に、2年生で実施している「職場体験」は「自分の生き方や進路」について考える大きなきっかけになっていると考えられ、キャリア・未来デザイン教育の充実に向けてとても意義深い体験的活動である。

○自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。



②生徒の主体的な学びを推進する授業改善

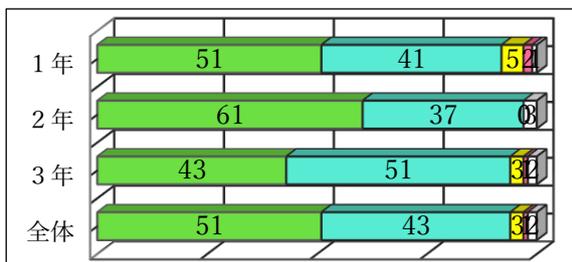
「授業を通して知りたい、学びたいという意欲が高まった」と自覚できる生徒を85%以上にする。



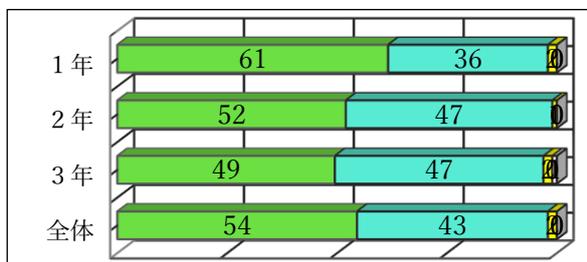
この問いに対する肯定的評価（グラフ左）は、1年：80% 2年：81% 3年：74% 全体：78%であった。2・3年生の集計結果を前学年次の同じ問いへの回答（グラフ右）と比較すると、大きな変化は見られなかった。

一方、重点目標②「生徒の主体的な学びを推進する授業改善」の目指すところは、重点目標①「キャリア・未来デザイン教育の充実」の実現に向けた「せたがや探究的な学び」への学びの質的改善にある。この「せたがや探究的な学び」の取り組みのキーワードに「共感・協働」があるので、それに関する問いを二つ抽出してみる。

○先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。



○授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。



どちらの問いもすべての学年で肯定的評価が90%を超えており、授業内の取り組みとして、対話を通して「共感・協働」できる場が確保されていることがうかがえる。学校経営方針にある「せたがや探究的な学びの視点からの授業改善」が着実に進められ、成果をあげている。

生徒の「学校生活振り返りシート」からは、より具体的に授業像が読み取れる。「振り返りシート」では、『知りたい』『学びたい』『楽しい』『充実している』と思う授業は、どんな授業ですか。」という自由記述形式の質問項目があり、その集計結果の上位にあがっている内容は以下の4点である。

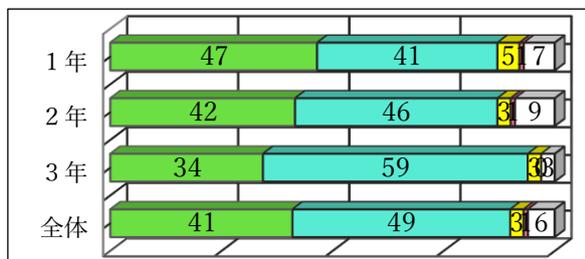
- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 意見交換や話し合いのある授業 | 2 体験的・活動的な授業       |
| 3 新たな発見や気づきがある授業 | 4 自分の生活との関わりがわかる授業 |

特に、「意見交換や話し合いのある授業」すなわち「対話的な学び」「協働的な学び」に充実感をもつ生徒が全体の25%近くを占めていた。梅丘中学校で目指すべき授業像がはっきり示されたといえる。現状に満足せず、生徒と共にこれからも授業改善を進めていただきたい。

### ③豊かな心を育む教育の推進

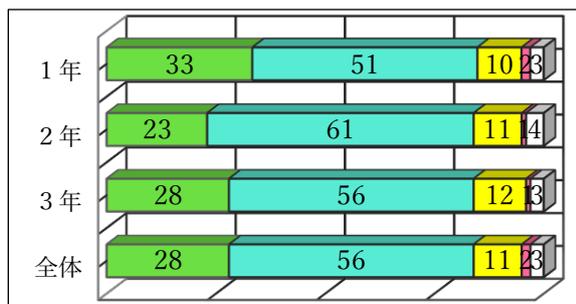
**「わたしは、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している」と自覚できる生徒の割合を90%以上にする。**

この問いに対する肯定的評価は、  
 1年：88% 2年：88% 3年：93%  
 全体：90%であった。数値目標を達成しているとともに、前年の調査結果と同様のとても高い評価結果となっている。

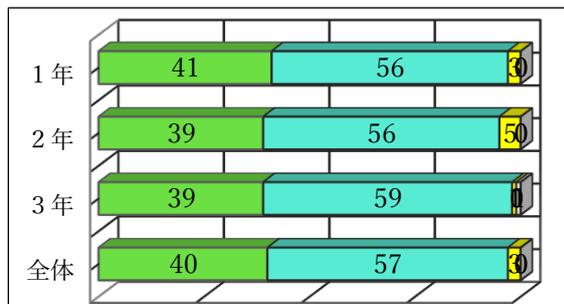


具体的に、学習指導の場面でこの自覚の表れがうかがえる二つの問いから考えてみたい。

○私は、授業の発表や話し合いの場面で、自分の考えを他者にわかりやすく伝えようとしている。

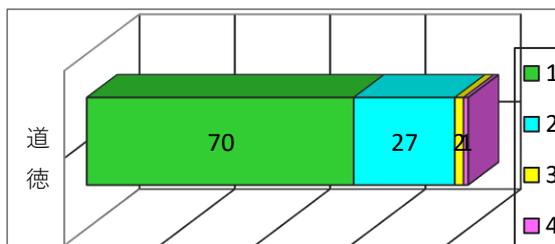


○私は、授業の発表や話し合いの場面で、他者の発表や発言をしっかりと聞いて理解しようとしている。



話し合い活動を成立させるには、生徒同士のお互いを認め合う姿勢が不可欠である。二つの調査結果からも、思いやりの心や認め合う心をもって人と接しようとする自覚の高まりがあることがわかる。生徒がこのような自覚を高めていく背景として、道徳授業の充実をとりあげたい。

「授業について内容を理解していますか」という問いを9教科と道徳について調査したところ、右のグラフの通り97%の生徒が肯定的に評価している。特に「1おおいにそう思う」という回答が他の教科に比べて圧倒的に高かった。関わり合いを大切に生徒に考

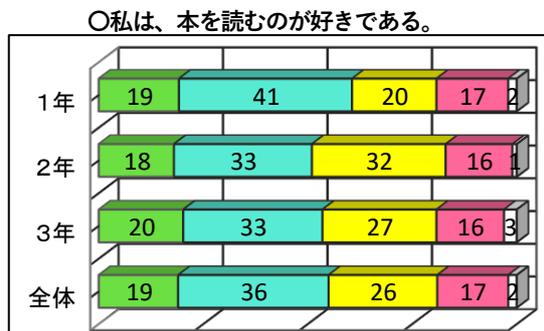


えさせる指導を地道に取り組んできたことが、この調査結果に結びついたと考える。

(2) 重点目標以外の評価項目について

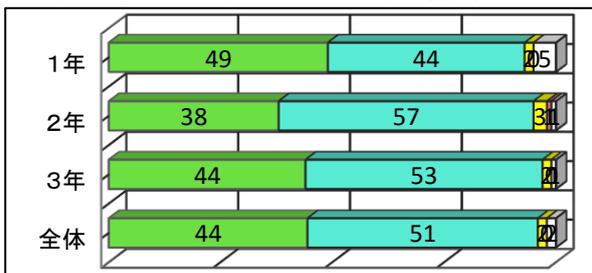
①学習指導

読書活動は、学習の基盤となる言語能力を向上させるためにとても重要な活動になる。そこで、昨年からの変化を見たところ、肯定的評価は全体で60%から55%に減少していた。電子機器を取り扱う時間が多くなっていることもあるためか、読書離れが改善されにくい状況である。図書館司書と連携した学校図書館利用の充実を図ったり、教科の学習指導で学校図書館の利用頻度をあげて図書資料に触れる機会を増やすなど、他校の事例も参考しながら、本を読むことが好きになる生徒を少しでも増やしてほしい。

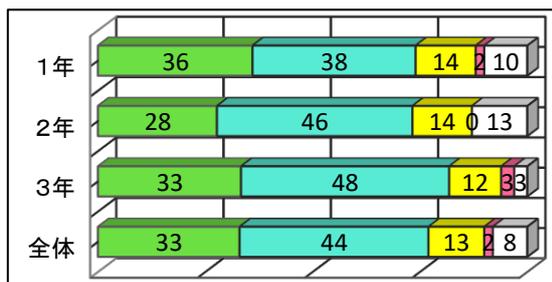


②生活指導

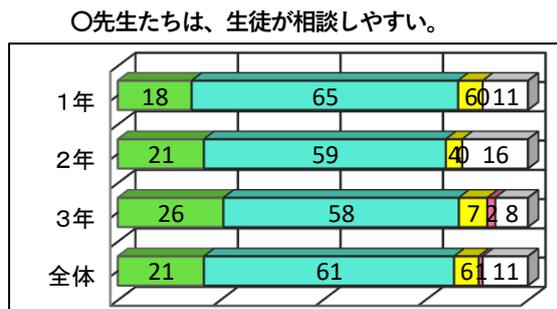
○私は、学校での過ごし方やルールについて考えて、適切に判断して行動している。(生徒)



○本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。(保護者)



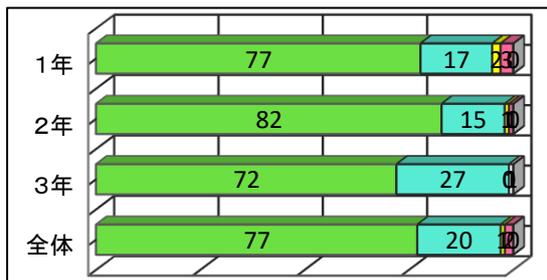
「学校生活の過ごし方やルール」に関する問いへの回答結果を見ると、落ち着いて安定した学校生活の基盤が整っていることがわかる。その一方で、「相談しやすさ」をはかる問いへの肯定的回答は、「生活」に関する問いの中で最も低かった。個に応じた指導を進めていく上で、充実させていきたい分野である。



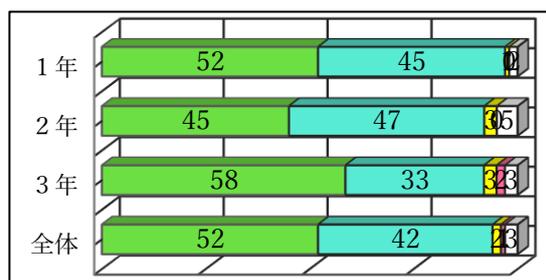
また、「学校生活振り返りシート」には、少数ではあるが「我慢をしている人がいる」「感情をもっと言葉や行動で表したらいい」といった学校生活を心配する意見があることを忘れてはならない。生徒一人ひとりの願いや思いを受け止めて、ていねいな生徒指導をこれからも進めてほしい。

### ③学校行事

○学校行事は、達成感がある。(生徒)

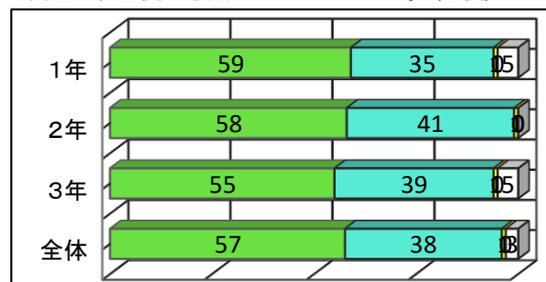


○本校の学校行事は、子どもにとって達成感がある。



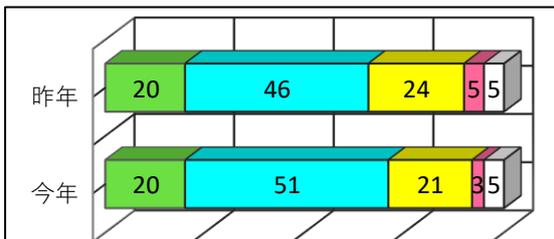
充実した学校行事から生徒が大きな達成感を得ていることが、生徒・保護者どちらの回答結果からもよくわかる。特に、生徒の意欲を大切に、学校行事運営に生徒を主体的に参画させようとしていることが、生徒の達成感を引き出す大きな要因と考える。こうした教員の生徒を見守る温かな姿勢は、確実に生徒に伝わり、生徒と教員の信頼関係構築に大きく貢献しているに違いない。達成感の積み重ねは、生徒の自己肯定感や挑戦しようとする意欲の向上に不可欠である。これからも学校行事には期待していきたい。

○先生は、生徒の意欲を大切にしている。(生徒)

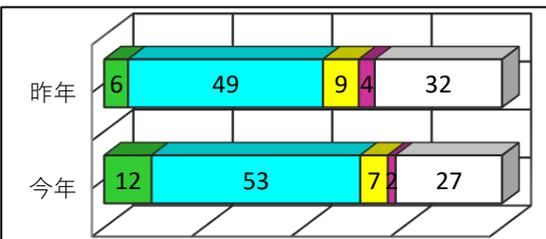


### ④キャリア教育

○私はキャリアパスポートに書いた目標について、考えて行動している。



○本校はキャリアパスポートの目標について、子供に考えさせる指導をしている。



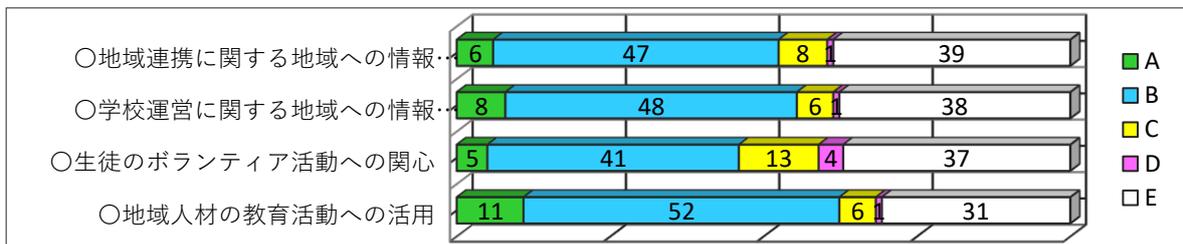
これまでも、キャリアパスポートの活用については改善の余地があるとの課題が指摘されてきた。そこで、昨年度より三者面談でキャリアパスポートを活用して「1分間スピーチ」を始めたことを受けて、キャリアパスポートに関する同様の問いへの回答を比較してみた。

結果をみると、特に保護者の回答で肯定的評価が増加し、「わからない」の回答が減少するという変化がわかる。三者面談での活用は重要であるので、今後とも「1分間スピーチ」を継続してほしい。

### ⑤学校からの情報提供・家庭地域との連携

「学校からの情報提供」という問いには、肯定的評価が保護者 94% 地域 100%と、とて高くなっている。保護者にとって「すぐーる」による情報発信が定着したことが大きい。地域の方にとっては、ホームページや文書による地道な情報提供が成果につながっていると考える。一

方、保護者の評価で「わからない」が25%を超えている問いが7項目あり、30%を超えている問いとその回答結果が次のグラフである。



地域連携に関する問いが多くなっていることがわかる。ゆかたの着付け・避難所運営訓練・赤ちゃんふれあい体験など、地域の方の協力により実現している体験的活動はかなり充実しており、地域とともに子どもを育てる教育を推進する上でも大切にしたい取り組みである。情報提供の工夫については、他校の事例も参考にしながら工夫していただきたい。

#### 4. 総合所見

今年度の「学校関係者評価アンケート」集計結果と生徒の「学校生活振り返りシート」集計結果から、教職員一丸となった教育活動への取り組みにより、梅丘中学校の目指す生徒像である「正しい判断力を身に付ける」生徒・「豊かな心をもつ」生徒の育成は、着実に成果をあげていることがうかがえる。しかし、こうした現状に満足して改善を怠っていけば、学校としての成長の歩みは必ず滞ってしまうであろう。学校改善の歩みを止めてはならない。

また、**改善すべき課題があることは学校の常でもある**。生徒一人ひとりの思いや願いを真摯に受け止めて、生徒指導に全校体制で取り組んでほしい。

令和8年度より、世田谷区では地域運営学校を支える新たな仕組みが導入され、学校関係者評価委員会の在り方の見直しが進んでいくこととなる。しかし、どのような形であれ、生徒・保護者・地域の願いを受け止めていくことは、学校として忘れてはならない姿勢である。

本報告書に示した成果と課題を十分にふまえて、次年度の学校運営が一層充実・発展していくことを祈念します。

令和7年度 世田谷区立梅丘中学校 学校関係者評価委員会

榎田 和明（委員長） 鈴村 章子 福島 智子 高橋 純子 神内 由貴 事務局 兼平 誠